

2021年3月5日

本邦初となるネットゼロ・アセットオーナー・アライアンスへの加盟について ～2050年までに当社運用ポートフォリオの温室効果ガス排出量を実質ゼロに～

第一生命保険株式会社(代表取締役社長:稲垣 精二、以下「当社」)は、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロのポートフォリオに移行することを目指す機関投資家の国際的なイニシアティブ「ネットゼロ・アセットオーナー・アライアンス」(以下、「ネットゼロ AOA」)に加盟しました。なお、本邦アセットオーナーのネットゼロ AOA への加盟は、本件が初めての事例となります。

THE NET-ZERO ASSET OWNER ALLIANCE

- パリ協定での目標(気温上昇を 1.5°C未満に抑える)達成を目的に、2050年までの運用ポートフォリオのカーボンニュートラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)にコミットするアセットオーナーのイニシアティブ
- 2019年、国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP-FI)と国連責任投資原則(PRI)の主導により設立
- 独 Allianz、仏 AXA、米 CalPERS といった世界的な保険会社や年金基金等を含む 33 機関が加盟しており、加盟機関合計の運用資産総額は5兆ドル(約 525 兆円)を超える(2021年1月時点)

当社は、ネットゼロ AOA への加盟を通じて、今後 2050 年までに運用ポートフォリオの温室効果ガス排出量を実質ゼロとすることにコミットし、産業革命以降の平均気温上昇を 1.5°C未満に抑制するというパリ協定の目標と整合的なポートフォリオへ移行することを目指していきます。

2050年脱炭素に向けて5年ごとに運用ポートフォリオの中間目標を設定

- ネットゼロAOAのプロトコル(具体的な削減目標設定のためのガイドライン)に則り、株式・債券・不動産のアセットクラスについて、2025年までの目標を今後設定
- 不動産では、RE100(※)を2023年度末までに達成する方針(投資用不動産は2021年度中達成)

※ 事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目標とする国際的なイニシアティブで、当社は2019年8月に加盟

投資先企業の気候変動への取組・行動変容を後押しするエンゲージメントの強化

- GHG排出量上位の投資先企業等に対して、パリ協定に整合した気候変動対応に関する対話を実施
- TCFDへの賛同、気候変動がもたらす財務インパクトの情報開示促進、GHG排出量削減に向けた目標設定と実行など、気候変動関連のエンゲージメントを強化

投融資を通じて、低炭素社会への移行や環境イノベーションの創出を支援

- グリーンボンドや再生可能エネルギー発電事業への投融資に加え、トランジション・ファイナンスなど、低炭素社会への移行に向けた資金供給を積極化
- 環境イノベーションの創出に向けた成長企業・ベンチャー企業投資(インパクト投資)の拡大

2050年までにGHG排出量実質ゼロのポートフォリオに移行

当社は、日本全国の約 1,000 万名のお客さまからお預かりした約 36 兆円の資金を幅広い資産で運用する「ユニバーサル・オーナー」として、これまでも積極的に ESG 投資の取組みを拡大・進化させてきました。今般のネットゼロ AOA への加盟を通じて、当社の ESG 投資の更なる高度化を図っていきます。今後も引き続き、責任ある機関投資家として持続可能な社会の形成に寄与すべく、ESG 投資に積極的に取り組んでいきます。

第一生命グループは、サステナビリティを巡る課題への対応に関する取組みをこれまでも進めてきましたが、2021 年4月からの新たな中期経営計画においても、これを更に強化し、様々な社会課題の解決に向けて取り組んでいきます。

このうち気候変動への対応は、当社グループが位置付ける「重要な社会課題」の一つであり、本件のみならず、本日リリースにて公表している「2023 年度までの 100%再生可能エネルギー化(RE100)達成方針を策定」「新たなCO2排出量削減目標の設定について¹」に係る取組みについても、併せて進めていきます。

当社グループは、これら気候変動への対応について、グループの特色を生かしつつ、スピード感をもって取り組んでまいります。



¹ 第一生命ホールディングス株式会社 (<https://www.dai-ichi-life-hd.com/>) ニュースリリース